

第 22 回日本ジオパーク委員会議事録

日時：2014 年 12 月 22 日（月）13:00～18:00

場所：環境省第 2・第 3 会議室（中央合同庁舎第 5 号館 19 階）

出席者：

委員長

尾池和夫 京都造形芸術大学長（日本地震学会）

副委員長

中田節也 東京大学地震研究所教授（日本火山学会）

委員（五十音順）

阿部宗広 一般財団法人自然公園財団専務理事（関係団体）

大野希一 島原半島ジオパーク（日本火山学会）

菊地俊夫 首都大学東京教授（日本地理学会）

斉藤清一 日本ジオパークネットワーク事務局長

高木秀雄 早稲田大学教授（日本地質学会）

佃 栄吉 産業技術総合研究所理事・地質調査総合センター代表

中川和之 時事通信社 山形支局長（日本地震学会）

成田 賢 応用地質株式会社代表取締役社長・全国地質調査業協会連合会会長

宮原育子 宮城大学事業構想学部教授（日本地理学会）

目代邦康 公益財団法人自然保護助成基金主任研究員（第四紀学会）

顧問

伊藤和明 防災情報機構特定非営利活動法人会長

小泉武栄 東京学芸大学特任教授

町田 洋 東京都立大学名誉教授

事務局

利光誠一 産業技術総合研究所地質標本館館長

下川浩一 産業技術総合研究所地質標本館副館長

渡辺真人 産業技術総合研究所地質標本館

宮内 渉 産業技術総合研究所地質標本館

川辺禎久 産業技術総合研究所地質標本館

大谷 竜 産業技術総合研究所地質標本館

菅家亜希子 産業技術総合研究所地質標本館

13:00

（利光）〔開会宣言〕

〔委員長挨拶〕 ご出席いただき感謝申し上げます。今回は 4 地域の再認定と 1 地域の新規認

定について 17 時までには結論を出し、記者発表する予定になっているので、ご協力のほどよろしく願います。

[資料概要説明・確認]

(委員長) 委員とオブザーバーで配付資料が異なっており、漏れ等がないか確認していただきたい。前回議事録については、会議中、お気づきの点があればご指摘いただいたうえ、今回で最終確認とさせていただく。

[ジオパーク活動の状況 (資料 2)]

資料に基づき、渡辺から前回委員会以降のジオパーク活動の現状について説明。

(委員長) 日本ジオパーク南アルプス大会の参加者が 6 千人ということだが、どこまで確認した数字なのか。

(委員) 登録者数が延べ 6850 ということで、ジオキャラを見に来ただけの人も含まれる数。

(委員長) GGN の法人格はなぜフランスで取得されたのか？

(事務局) フランスに中心的な人がいたということではないか。

[再認定地域現地審査報告と質疑応答]

1. 白滝 (資料 3)

(委員) 説明者の到着が遅れているので、代わって報告書をもとに説明。課題は、NPO があまり動かず、町主体の活動になっていることで、町長をトップとした NPO に作り変えていく予定。現状を変えようという動きが認められるので、審査員としては認定可としたい。

(委員) 最終的に合格とは言えない。組織をうまく回すことができず、行政が仕方なくやっている状況である。

(委員) 北海道の他のジオパークと相互研修を行うなど、お互いに支え合っていくことを確認している。そのことも評価した。

(顧問) 審査の後に社会人を連れて現地入りしたが、お土産が買えないという不満があった。せっかく資源はあるのに。

(委員) ジオツアー用弁当ができて好評。特産品のじゃがいもを活用し、ジオ的説明を加える等の試みはしている。

(委員) 弁当はとても丁寧で質が高かった。ゆっくりとした動きだが、変化してきている。後退はしていない。

(委員) 冬は半年間、降雪で動けないことも考慮したい。

(顧問) 最初の審査を行ったときは粗雑であった。ジオをどのように取り入れるのかわからなかったが、埋蔵文化財センターでの取り組みは？

(委員) 委員向け資料にあるように、埋蔵文化財センターのワンフロアにジオの展示が入った。ただ説明に地学的な間違いもあり、大急ぎ感はある。但しそれらの訂正はしている。

展示は考古学の方が充実している。

(顧問) 以前は、考古学でも一部だけしかいていなかった。火砕流の話とか全く出ていなかった。全体の説明をした上でツアーを行っているというが、大丈夫か。

(委員) 一定のものはできている。

(委員) 説明者が考古学の専門家なので、地質については細かいところが気になる。来年以降は地質の人を専門員で入れることで徐々に改善していく、ということである。

(委員) NPO がこけて事務局主体で行っているということだが、その後は？報告書に書いていないのではないのか？ビジョンはあるのか。

(委員) 1年かけてやりたいということの連絡は一昨日、メールで受けている。

(委員) 関係者で集まって運営組織会議が2回開かれていて、将来展望について議論した。ぎりぎりでもらった報告ではまだ青写真はない。

(委員) NPOは何をやっているのか？

(委員) 何もやっていない。活動実績を調べてみたが「なし」と記載されていた。

(委員) 今の主体は推進協議会だったと思うが、NPOなのかどっちなのか？ジオパークとして認定されていたのは佐々木町長がトップの推進協議会ではなかったのか？その活動はあったのか？

(委員) 協議会としては、JGNと認識の違いがあった。ジオパークの事務局として動かしているのは町長ではないと認識している。名簿には佐々木町長の名前で書いてあるが……誰か把握はしていないのか？

(委員) JGNでは推進協議会の名前で佐々木町長という名前で登録されている。NPOというのは協議会の中の活動ということで認定された、というのなら不思議ではない。

(委員長) いつの間にか認定上の名前が変わっていたというのは問題。

(委員) 認定に向けて活動していた協議会は、構想を受け持っていた。実際にジオパークとして認定されたら、NPO法人が回していこうという計画のもとでやっていたというのが私の理解。しかしNPOが回らなかったのもので、ジオツアーに伴う、バス手配や保護が必要な区域におけるゲート管理などは役所としてできることを役所がやってきたのが実態。

(委員長) 地質の専門家を補充するというのは、町役場の職員としてか？

(委員) 遠軽町のジオパーク推進課の職員としてである。

(委員) 組織としての持続性に不安がある。実施部隊のNPOが機能してないとか、観光協会が連携しようとしてもやっていけないのに、報告書では十分やれるというのは、活動がチグハグな印象を受ける。できたらいいな、と思っているレベルではないか。

2. 伊豆大島 (資料4)

(委員) 資料に基づき説明。2013年に起きた土砂災害の復興の中での再認定審査で、忙しい中対応してもらった。再認定審査なので当初の計画はどうかと聞いたら、2013年に作ろうとしたが災害のため、計画は作っていませんという返事だった。一方、認定時の課題につ

いてチェックしたが、個別の課題については精力的にやられており、拠点施設を除いて認定時の課題はクリアされている。その中でも注目すべき活動は、山頂で解説する火山の脅威と恵みや、防災について学校教育が熱心な校長先生がいて、小中高までジオパークをカリキュラムの中に取り込んでいること。またジオサイトの野外活動も活発で、ガイドレベルも大変向上している。溶岩が流れることを想定させたり、溶岩の音の違いの解説等を工夫してやっていて、大変感動的であった。また、スキューバダイビングのガイドは、水の中に入った溶岩がどうなっているか等「海のジオサイト」をやっており、いろいろな試みが行われている。また、2013年の土砂災害では語り部のガイドが、総務省の補助金をもらって新しい事業として展開しており、全国大会を誘致する計画。

一方、地元住民への普及や組織化が不十分。ボランティアの努力は感じられるが、持続性に不安がある。町長などから反省や決意は聞かれたが、基本的な計画や方針に欠けている。このままでは一生懸命やっている人達が疲弊するのではと危惧する。いろんな人が懸命に努力してやっているが、ばらばらでまとまっていなく、せっかくの力がそがれており、持続性に懸念がある。これは結局、基本的な計画がないまま動いているためだと思う。そのため、基本計画を元に、地域にあった持続的かつシステムティックに動く組織作りをするべきではないか。推進協議会で議論して大島ジオパークをどうしたいのかをまとめ、実行計画作ってそれを動かす組織を作るとするのが大切ではないか、という話しを審査員3人の結論として出した。

以上から、審査員の結論としては、ジオパークを更に活性化したいということで2年の猶予を与えてイエローという結論にしたい。

(委員) 審査の前に町議会議事録3年分に目を通したところ、町長のジオパークへの取り組みに意欲が感じられた。議員からもいろんな質問が出ており、ジオパークに対して真摯に取り込んでいるのが分かった。環境省の自然保護官、気象庁の火山連絡事務所、東京都の課長さんは熱心で、嬉しくなるくらい本気であった。一方で報告にあったように、地域で取り組んでいる方が少ない。いろいろな人のネットワークを確立するために、組織を見直すことで次につなげていけばいい、という結論。

(委員) 白滝と同じだが、組織を変えていこうということはしている。大島の場合は災害をどう考えるかがポイント。被災したことにより伝えなければいけないことが増えてきたと思われる。町でジオパークが広がったのも災害後。被災をバネにしての活動等、災害前と災害後とでは何かコメントはあったか？

(委員) 今後どうするかについては、推進協議会と事務局で大変危惧。地域の人からも、一部の人のジオパークになっていという匿名の声が寄せられた。危機感の関係者の間で持たれている。最終日のヒアリングに、協議会にははかられていないが、事務局案の組織案をもらっている。但しこれは正式なものではない、ということで報告書には載せていない。

(委員) どのようなものか。

(委員) 組織図自体は再認定申請書にあったもの。そこに、これから運営部会を作っている

んな調整をしていくという。コアメンバーといわれる人が支えてジオパーク活動を続けてきたが、その人達に運営部会に入ってもらって調整を進めていく、というもの。担当者メモという形でもらった。

(顧問) 昨年 10 月の災害による復興はまだ道半ばで、ジオパーク活動が停滞しているのは同情に値する。復興でおおわらわなのでは？災害のあと 3 回大島に行って、そうした状況をしみじみと感じた。未曾有の災害ということだが、認定されたジオパークが被災した例はあまりない。伊豆大島は自然災害と共存していく宿命なので、見守っていきたい。

(委員) 東京都の復興計画を策定したメンバーの一人として、復興計画がジオパークを中心に置いていることをお知らせしたい。都に比べて町は消極的なように感じる。

(委員) ジオパークという名前を使うと補助金を取りやすくなったという話は聞いたが、町はやや消極的。来年の基本計画に取り入れていきたいという話はあった。

(委員) 町の行政力はジオパークに限らず弱い。ようやく若手が動こうとしている。これからスタートではないか？町長も政治的な足場が弱い。被災者は、町へ不満を持っていく傾向があり、ジオパークを表に出してしまうと、復興の方はやらずに貴重な資源を被災者に向けないのか、とジオパークをマイナスに見る被災者感情が出てくるのではないか。あの土砂災害がなければ去年の秋には室ができ、動き始めるはずだったのに、マイナスのスタートになってしまった。そういうことは考慮すべき。

(委員) 現地ヒアリングのことで聞きたい。ジオパークになったことによって、災害のとらえ方が変わっているというエビデンスはあるのか？

(委員) 個人的な感覚だが、ジオパークになっていたからどうだという話は聞けなかった。少なくとも会った人からは聞いていないと思う。

(委員) コメントだが、古くからの観光地ではジオパークがなくてもお客が来るので、ジオパークって何だ？という感情を持たれやすいようだ。なので、私はジオパークを加えると深みが増すよ、ということを行っている。

(委員) 椿園のおかみと同じようなことを言っていた。被災するまではジオパークを考えてなかった。被災してジオパークというのはすごい重要なんだ、これから来る人に伝えていく責任がある。知っていれば助かっていた人がいっぱいいたはずだ、と被災してジオパークの必要性が感じられたという意見もあった。でも残念ながら組織化はされていない。

(委員) ジオパークになっていたのに、地元住民にうまく伝わっていないのは問題。

(委員) 気象庁の勉強会で聞いた話だが、自分達が観測データを直接みないといかないということで地震波形の勉強会をしている地元のジオパーク活動しているグループがあるとのこと。ポジティブに捉えている人はいっぱいいるのに、行政のサポートが不十分。

(委員) 伊豆大島は観光地としてのイメージが強いので、ジオパークとしてのアピールがまだできていない。ジオパークでやらなくても観光で来るのでいいのでは、と。そうした、個々のガイドの努力に頼るだけでなく、システムティックな営業活動が必要だと思われるが、それが見えなかった。

(委員) 災害がなければ役所に室ができて担当者が設置され、再認定審査はOKだったはず。また、災害があったからジオパークが広がったというのはあったはずで、皆が乗りやすくなっているということもあるのではないかと。被災したことで、1年間取り組みが遅れてしまったことをどう考えるか？

(委員) その点について、例えば伊豆大島郷土資料館では、ジオパークのことはやられていないし、ジオストーリーも整備されていない。土砂災害がなくても、実はこのままだったのではないかと。

(委員) 実は大島の観光客数はじり貧で、東京都の海のふるさと村は稼働率が低く、お荷物状態だったのが、3年前ジオツアーをやったら60%になった。ジオツアーは観光客が呼べるんですね、と救世主だと認識されている。やる気さえあれば人呼べるはず。後はシステムティックにやるかどうかの問題だけ。

(委員) それを見守るのか、実際に今実現していないからダメというのか、ということでは白滝と同じ。

(委員長) 他の視点はないか？

(顧問) ジオパークとしての教育環境は整っているし、歴史時代の噴火記録も充実している。問題点は、解説者がいないこと。

(顧問) 最初にジオパークとして認定審査した時には、組織的には弱いけど、ジオ資源が多いということで通した。しかしどうも組織的取り組みは改善されていないように思われる。

(委員) イエローにすると紛糾するのでは？せっかく動いてきたのに熱意がしばんでしまう心配がある。

(委員長) 見通しについてはあとで議論する。

3. 霧島 (資料5)

(委員) 資料に基づき説明。2年前の世界申請で審査し、ジオサイトと保全等課題とされた点を中心にみた。人文、産業文化は入れ込む余地があるが、ジオストーリーはよくできている。ジオパークのエリア外でも見るべきものが出てきたので、サテライトとしてやっていきたいと言っている。教育も十分やられている。人文や歴史・文化はこれからの段階。管理運営組織は2県にまたがっているが、温度差をなるべくゆるめるような工夫が行われている。足並みをそろえようという意識はある。結論として、再認定可としたい。

(委員) 火山活動が活発化しているえびの高原への対応は？

(委員) 審査中は拠点施設が立ち入り禁止になっていた。危険性についてジオツアーで説明していた。

(委員) 今回は霧島がよく見えたようだが、遠くから見たり、曇って見えなかったりする場合も、説明できるようにするのがジオツアーである。

(委員) 推進体制において、推進協議会と活性化会議が平行で、互いの交流がない点は？

(委員) 推進協議会が主体で、月に1回交流会がある。

(顧問) ジオパークに認定される最初の審査の時、自治体間でバラバラな印象を受けたが、その点は？

(委員) 霧島市長は個性が強かったが、最近まるくなってきた、周辺地域も集まって相互に交流が始まった。

(委員長) 新燃岳の噴火の時も、ジオパークのおかげで連絡体制がよくなった、と言っていた。

(委員) ジオ商品について質問だが、霧島の水について、ジオパーク色はどうか？

(委員) ジオパークのブランドとして出している。町のお菓子屋さん等がジオ商品を開発して出すようになった。但しロイヤリティ収入はなく、宣伝効果のみである。

(委員) 長期的展望や世界を目指しての動きはどうか？

(委員) 回りの人たちは、まずは足元を固め、ジオパークのレベルをあげることを考えている。桜島と共同でやってもいいのでは、という意見もある。

4. 室戸 (資料6)

(委員) 報告書をもとに説明。結論としては再認定可としたいが、いくつかの課題はある。1つ目の課題は、長期的な計画がないこと。3年計画の先を見据えたものがない。作る暇がないということ言っていた。人員が足りないとも取れる。拠点施設が来年4月オープンするが、どう先々活用するかというのは考えられていない。長期的計画を作ることを指摘した。2つ目は、学術的情報の蓄積と整理ができていない。例えば看板の最新情報への更新についてはH、シールを上からべたべた貼るので対応。また学術との情報共有がなされていない。海岸段丘の説明が十分でなかったりする。もう少しアカデミックなところがあってもいいのではないか。3つ目として、専門員の雇用状況は大きな課題。3人の専門員は単年度契約固定給で、非常に問題。会長には指摘しておいた。また、県と市の担当者相互の情報共有が不十分であることも課題もある。

一方、ツーリズムの面では大変成功している。一定水準のレベルのガイドさんが常駐しており、その成功からネズミ算式にガイドさんが増えている。但し収入が目に見えて増えたのは、世界ジオパークに認定された後である。

(委員) 専門員の待遇問題は、JGNとしてどう考えているのか？

(委員) この問題については、年度内に詳細な調査を行って報告したい。室戸はソフト面での活動が活発だが、今後の展開についてはどうか？

(委員) 世界再認定審査を契機にステップアップしていく計画である。

(委員長) 「室戸で付加体の概念が確立された」という誤った科学的な知識が、世界ジオパークで伝えられるのはまずい。

(顧問) 13万年前の海成段丘という証明は十分にはできていない。ジオパークにいる人が隆

起速度等を含めて研究を進めてほしい。

(委員) 拠点施設について、将来的な活用計画が聞けなかったということだが、箱物を作って維持費で苦勞するというようなことがないようにしたい。作り込みの時点でどの程度のものかという説明はあったか。

(委員) 資料を基に説明。この施設を見学した後、外で実際に見てみたい、というコンセプトで設計している。プロジェクトマッピングを作ったり、シアターを作ったりと工夫はしている。住民の意見も反映されており、地域住民の期待が大きい。ただ計画は縦割りの的にも見える。

(委員長) 高知大学コアセンターとの協力関係は？

(委員) 拠点施設にラボが入る予定で、コアや JAMSTEC のデータも展示される予定。

(顧問) 南海トラフ巨大地震が発生すれば津波被害が想定されるので、地域の子どもたちへの防災教育が重要である。

(委員) 教育委員会にかなり言った。高知大に人材育成のセクションがあり、また、室戸高校がジオパーク学を学んでいる。小中はジオパークの教科はあるが、防災教育がないのはよろしくない。

(委員長) 次回の南海地震は2030年頃を政府は想定。その根拠が室津のグラフ。なのに室戸では余り教えていない。その辺りの防災意識がちょっとちぐはぐ。

(委員) ジオパークの中に防災がないのか。

(委員) 小中は全部の学校ではやっていない。手を挙げたところだけ。教育委員会が弱い。ジオパークと防災教育がきちんとリンクしていなかった。

[再認定審査結果の総合討論]

(委員) イエローカードについて、もう少し柔軟に考えたらどうか。GGN ではイエローカードを出すことで地元から感謝される場合もある。ふくい勝山を特殊な例としたくない。我々が見ているから頑張れ、というようなサインにしたい。

(委員) イエローカードは執行猶予のある有罪と考えられ、地元はショックを受ける。現状はそうなので、JGC としてメッセージを出す必要がある。また、再審査の基準としてのアクションプランがどうなったか、しっかり見ていく必要がある。

(委員長) 用語の使い方として、イエローカードは執行猶予付というのは、そもそも有罪の判決を前提としているので言い方が悪い。

(顧問) 用語のイメージというのはかなり効いている。保留とイエローカードでは何が違うのか。再認定審査では保留というのは使えないのか？

(委員長) 保留するわけにはいかない。ジオパーク自体には認定されているのだから。

(顧問) 勝山ではイエローという言葉を使った。

(委員長) 用語がころころと変わるのはよくない。

(委員) 4つの報告の印象が違う。ジオパークになってからの4年で課題となったことをどのくらいやってきたか。白滝と伊豆大島は組織の問題がクローズアップされている。組織というのは持続的に回していく柱であるから、持続性の担保というのでは前半2地域は疑問。後半2地域は課題とされたことがこうされた、というのがクリアに分かったので、異論はない。

(委員) 今の話しは、GGNならいいが、JGNではどこも同じようなことが出てくる。GGNはお金がつくし活動しないといけない、ということからこうした現状になっているだけでは？勝山はその意欲さえないので、イエロー。今回のケースではやる気はある。公開の場で言っている。改善に時間がかかることを、イエローを出してたった2年間では大変酷ではないか。

(委員) 室戸レベルにしようという話ではなく、絶対評価として、ジオパークになったからにはそれを運営していこうとする中で、前半の2つは後半の2つとは違うのではないか、という問題提起。GGNになったからうまく行くというわけではないと思う。どんな規模でも、ジオパークになったからにはみんなやる、ということではないか。

(委員) 今回の白滝の審査の場合、みなで話し合っただけで証拠として見れば前向きに評価して、下駄履かせてプラスにした。一方、やれませんでした、動いている人しか動いていない、というのではよろしくない。合意形成のプロセスが見えるかどうかで、一つの線引きにしてもいいのでは？

(委員) イエローは、組織を継続していこうという意欲を引き出すために重要と考える。決して全部が満足でなければダメということではないし、評価も一律ではない。今回の4地域をみると、前半と後半では違う。ジオパークは持続させること、これが重要なテーマで、持続性に対する担保に対するものがあるかどうかはポイント。これが出来てなければ、いい資源や材料があっても条件付再認定。こういう風にした方が地元にとってもやりやすいのではないかとその意味でイエローを使いたい。

(委員) 何らかの形で担保を取りたいのはその通りだが、地域に受け入れてもらうための努力が必要である。それをJGCとしてもっとやらないといけない。また、GGNに加入した地域は審査を受けた経験値もあるのに対して、今回の前半2地域は再認定審査自体は始めてで、それを考慮しないといけない。イエローではなく、アクションプランで強く指摘すればよい。イエローカードの考え方を変えるとなると、相当の準備が必要ではないか。

(委員) 考え方を考えるわけではなく、レッドも有罪ととらえるべきではない。レッドになってもカムバックは可能になっている。イエローを深刻にとらえなくもいいのでは？イエローをうまく使って、JGNを盛り上げていこうということを行っている。

(委員) 現状ではイエローになった地域を支える仕組みがない。

(委員長) 認定というのは現状のまま何もなくていい、ということではない。最初の審査の時、4年後に向けてやれと宿題を出している。再認定の時も4年後に向けてやれ、というのも同じで、無条件で再認定しているわけではない。再認定では認定はしますが、4年後の

宿題を出します。イエローの場合は2年後の宿題を出すということではないか。レッドはジオパークの資格を喪失するということだが、イエローはレッドに向けての予告だということではないと捉えている。ジオパークの資格はあるが、抜けているので、改善させていくというのが共通認識か？この辺りの議論をお願いします。

(委員) ふくい勝山にイエローが出て、北陸地域ジオパークの会議で話題になった。支える仕組みが全くないわけではない。イエローが出て、受けとめて活動を続ける意思があるかどうか重要である。

(委員長) イエローの地域が結果を受けとめ、彼らを支える体制がないといけない。

(委員) 白滝については、私達はイエローとは想っていなかった。前向きで動いていることを評価した。イエローを出した時の問題は社会的なインパクト、これまでの活動はダメだったという話しになって、こんなもの止めてしまえ、ということにならないか。大島は被災地なので取り残されている、ということ配慮しないといけない。2年で答えを出すように強いてしまうのはいいのか？組織組織とって形だけにならないのか？地元らしいものがないのではないか？

(委員) 白滝は受けとめ可能だと思われる。言われると動く。

(委員長) 審査があると動くということか？

(委員) 刺激を与えると動く。

(委員長) 被災地であるとの観点ではどうか？

(委員) 審査される人は覚悟していたが、認定取り消しにはならないだろうと思っていた。再認定、但し条件付であれば問題ないと思う。

(委員長) 再認定で厳しい宿題を出すというのはどうか。

(委員) 伊豆大島では4年間のアクションプランがなかった。最初の認定時にそのチェックを指摘していなかったのが、審査する側にも問題はあった。但し今は再認定する時に条件としてある。

(委員) もともとと言っていなかったことができていないから、というのはどうか。

(委員) イエローで出される2年間の宿題は絶対できないこととは思わない。1年以内にやってもらわないといけない、というのが原案だったが、諸処の情勢から考えて2年で十分クリアできると思われる宿題を提示している。町長にも課題は理解されている。なので次回の審査でイエローが出て、結果的にレッドということにはならないだろう。

(委員長) イエローの場合、公式発表での用語は？

(事務局) 「条件付き再認定」としている。

(委員) 地元はイエローを覚悟していると思う。背中を押されないと前に進まないという認識もある。むしろ、このまま認定してしまうと今までのやり方がよかったと誤解されてしまうかもしれない。ここで2年間でやること、と言われればやる、と地元の人はずう言っていた。サポートも我々で行う。

(委員) 白滝も、2年間で解決できる課題であればイエローでいいのではないか。

(委員) 伊豆大島は、被災したためにできなかったということはどう見るのか？3年目でやろうとしたことが災害でできなかった。次の動き出ているが、それもうちょっと先の話で時間がかかるので、イエローは厳しいのではないか。

(委員長) 災害の復興をJGCとして支援する、ということにするのか。

(顧問) ジオパークでいろんなところを回ってきたが、システムティックなサポートがないのに、個人レベルでガイドをやっているのは大変なことだ。白滝は協議会があったりして、見学申込みをした時に組織として対応してくれた。組織の課題といっても白滝と伊豆大島とは内容が違うと思う。大島はもっとバックアップしないといけない。災害でジオに目をむいたのなら、これは一つのきっかけになる。応援するという言い方でバックアップするのがいいのではないか。

(委員) 災害があったから、2013年にやる予定の事業ができなかった、というのはどうか。ジオパークを運営していくという基本がない中、災害があったからできないというのは違うのではないのか？

(委員) 2013年に室が出来ていれば、動き始めたはず。現地審査で説明はなかったのか？

(委員) そうした説明はなかった。

(委員長) 残り2つの地域については再認定とし、白滝と伊豆大島については、イエローだが条件を非常に分かりやすい形で示すという印象だが、異論はないか？

(委員) 事務局の体制がなかったというのに尽きるので、その点のみを言って他のことは言わない、というのではどうか。

(委員長) それはどうか。良い点等を指摘する必要がある。まとめると、4ヶ所ともジオパークとして活動を続けることは了解された。霧島と室戸は再認定でよいか？→委員了承。白滝と伊豆大島については、明確な絞り込んだ条件をつけて再認定とすることでよいか？→委員了承。

(顧問) 来年の成人式で呼ばれて伊豆大島に出かけるので、これまでの議論を伝えたい。

15:30-15:45 休憩

[認定保留中の苗場山麓地域の加盟の可否について]

(事務局) 苗場山麓地域は、前回の委員会で事務局体制の不備が指摘され保留となった。パワーポイントでアクションプランを説明。

(委員) 去年の十勝鹿追が保留だったが、その時も組織を作ってもらったということになっていた。今回も同じ。急いで作らせたのが良かったのかどうか、その後どうなったか？

(委員) 認定後に役所内で一本化したことにより、ゆるくつながっていた人が関わりにくくなった面はあるが、外向けに連絡先がはっきりした点はよかった、という話しは聞いている。良かった点としては、外から見えるようになった。連絡先が分かって、しかもレス早

い。

(委員) 組織を強く求めると体制が硬直化してよくない。みんなで支えることを言っておかないと。

(事務局) 苗場山麓が鹿追と違うのは、現在は二人だけでやっていて役場の中で拮がりがない。人が増えるのは単純にプラスになる。

(委員) 追加の資料をもらって、担当者とも電話で2回ほど話した。苗場では体制の強化により、教育委員会中心だったのが、横断的になった点は評価できる。

(委員長) 人が増えるのは大きい。

(委員) もともと部会活動はしっかりやっていた。プロな人がやっていた体勢。今、中核的組織がしっかりすれば、よりまとまっていくだろう。あと防災は重要。地震が頻発している。防災対策もジオパークを通じて行うようになってきた。

(顧問) 目代委員の推薦を受けて2回ほど行ってきたが、ジオストーリーについては、まだ理解が進んでいない。

(委員) アクションプランの作成過程で、他のジオパークからの情報収集などはどうか？

(委員) 新潟県域で交流はしており、最初はうまくいかなかった面もあるが、今はうまくやっている。

(委員) 前回まだまだというものが、拠点施設整備と長期計画。いつごろどうできるのか、という情報は？それからジオガイド養成の検討については、これから検討するのか？

(顧問) 拠点施設は良いものだが、考古学の部分が大きい。ジオパークの展示施設は狭い。廃校になった建物を施設にしようとしているみたいだが、いつ頃できるのかは知らない。

(委員) 養成の件については連合大会で話が出て、第四紀学会を通して協力することになった。

(委員) 急な整備での弊害は？

(委員) 学術的にずっと継続されてきたので、特に問題はない。

(委員) 保留は1年間の期間があるのに4ヶ月という短期で進めるのはいかがか？

(委員長) 今の時期はタイミングとして大事である。また突貫でこれだけできるならば大したものである。

(顧問) 突貫には見えない。かなり準備はしてきたといえる。

(委員) アクションプランの書き方は若干問題があるが、専門家との連携がうまくいっていないのではないか。

(委員長) これから専門家を入れることになっている。

(委員) 教員 OB の方が、こうした人達をハブとして地域で一緒に活動していくことを期待する。

(委員長) 苗場山麓について保留を解除するというのでよいか？→委員了承。

[来年度以降の JGC の体制について]

(事務局) 諸般の事情により、JGC 事務局を産総研として継続していくことができなくなった。

(委員長) どこかに事務局を置くことになるが、会議室を確保するのが難しくなった。

(顧問) 東京地学協会ではやれなくはないと聞いている。

(事務局) もし伝手があれば、喜んで説明に行く。

(委員長) 以前、産総研の新理事長を表敬訪問し、引き続き産総研で事務局を引き受けることを了解してもらっていたが、突然、約束を反故にされたというのが実情である。今のところ、理事長からの説明はない。

(委員) JGN としては、JGC の事務局は、独立した機関が担うのが望ましい。来年度の新規加盟申請等の取り組みが始まるので、早めに具体的に進めたい。当面の対処法についても意見交換が必要である。

(委員長) 暫定的に、JGN に事務局を1年間置くということもあり得る。

(委員) JGN にできてしまうというのは本来的ではない。

(委員長) 引き続き意見交換したい。

(委員) 国会議員の議連が内閣府にできたことと関連があるのか？

(委員) 議連の窓口は、内閣官房に置くことになった。

(オブザーバーの文化庁) 今のところ、地域の窓口にはなっていない。問い合わせがあったときに内閣官房から各省庁に話がいくことになっている。

(委員) 明後日に情報が入る可能性がある。

(事務局) 来年度については申請地域が見えてきたら募集することになる。連合大会のジオパークのパブリックセッションは5月24日(日)に行う予定であるが、JGC では例年と違い、前日の23日(土)にプレゼンテーションと審査を行いたい。

(委員) JGN では、5月22日にAPGN と共催で研修会を行い、5月24日の夜に大交流会、5月25日に総会を行う予定である。

(委員) 連合大会では学術セッションを立て、これは英語での国際セッションになる予定だが、日程は未定。

(委員) 来年3月に仙台で国連防災世界会議が開催され、ジオパークのパブリックセッションがセットされた。ゲストはユネスコのマッキーバー氏。

(事務局) マッキーバー氏は伊豆半島ジオパークが招聘し、会議後に、伊豆半島を回る予定。

16:55 閉会

17:15 事務局員による再審査結果等の電話連絡

[プレス発表]

尾池委員長によるプレス発表説明の後、質疑応答。

(共同通信) 日本ジオパークの再認定は4年後となっているが、室戸が違うのは？

(事務局) 世界ジオパークになった場合、その再認定の前年に行うことになっているため。
(新潟日報) 苗場山麓が保留解除になったが、その決め手や魅力、課題等について教えてほしい。

(事務局) 苗場は縄文遺跡や自然の魅力が多い地域である。ジオパークの推進体制に問題があったので保留としたが、アクションプランが出されて納得したということ。

(委員長) 栄村が震災に遭い、取り組みが遅れていたが、改善計画が明らかになった。考古学等と協力して推進してほしいとの期待がある。

(新潟日報) 取り組みが不十分な場合、取り消しもあるということか？

(委員長) 一般的にはそうだが、アクションプランで確認したので、着実に実行されることを期待する。

(委員) 「なお書き」はこれまでなかったが、今回から入った。

(北海道新聞) 条件付き再認定の場合、2年後に再審査してダメだった場合は取り消しになるのか？条件付きの過去の例は？

(事務局) 昨年、ふくい勝山に出されたのが初めての例である。

(委員長) ダメ出ししているわけではなく、改善されることを期待している。

(委員) JGC ではイエローカードについてあまり議論してこなかったが、GGN ではイエローを出した地域がその後伸びているところが多い。イエローの場合、JGC の積極的なサポートも行う。

(委員) 昨年の例で、イエローを出した後で改善が進んだこともあり、白滝や伊豆大島にもあえてイエローを出した。

(共同通信) 今回の苗場は日本ジオパークに認定されたのか、それとも日本ジオパークネットワークに加盟したということか？

(事務局) どちらも同じことを意味している。

(共同通信) 日本ジオパークの数は36になった？

(委員長) そうだ。

(共同通信) 条件付き再認定の2地域は今回と同じ審査となるのか？

(委員長) 同じ審査である。

(北海道新聞) 白滝の具体的な課題は何か？

(委員) すでに地元でも認識されており、改善が進められつつあるが、JGC としてそれを加速させる手伝いをする。

18:00 終了